



タンチョウの将来は

理事長 百瀬邦和

今年はタンチョウの分散に関わる話題がいくつも出てきました。

まず、道北の枝幸町に数年前から定着していたつがいがか初めて繁殖に成功しました。これまで道北で確認されていた繁殖つがいを加えると7つがい目となります。また、北海道最南端のタンチョウ繁殖地で、十勝から道央方面への経路に当たるえりも町では今年もヒナが確認されたそうですが、この繁殖つがいとは別の2羽が出現しています。日高の浦河町にあるダム湖にも2羽の出現がありました。2年前ヒナに標識したむかわのつがいは、今年の繁殖には失敗してしまいましたが、隣町の厚真町でヒナ連れの家族が見つかりました。道央地域ではこのほかに苫小牧市、長沼町、栗山町などでもヒナ連れの家族が観察されました。それぞれの家族が同じなのか、あるいは別々なのか判っていませんし、観察された時期が水田や畑の収穫が始まってからなので、どこで繁殖したのかもはっきりしないのが残念です。さらに11月には千歳市で収穫後のトウモロコシ畑に7羽もの群れが出現したという情報もあります。いずれにしても、道央の各地でタンチョウの目撃情報が多くなってきたのは確かなようです。既にタンチョウが定着しはじめている長沼町の舞鶴湧水地に続いて、造成工事が最終段階に入っている千歳川沿いの他の5ヶ所の遊水池もタンチョウの生息地となる期待が持たれています。道北に続いて道央にもまとまった数のつがいが定着するようになれば、タンチョウが真に北海道の鳥として認識されるようになるでしょう。

自然豊かな北海道の象徴として、さらに自然と共生する社会の、目に見えるシンボルとしてタンチョウが位置付けられるように、ツル達にも頑張ってもらい、私たちも、社会への働きかけを強めていかなければいけないと思っています。

巻頭言 . . . 1

第37回前田一步園賞受賞 . . . 2

2019年度調査活動の中間報告

野生ヒナにおける . . . 4

鳥マラリア原虫保有状況

タンチョウは風切り羽を . . . 6

いつ換えるのか

<連載>

鳥と自然と人⑤ . . . 7

Belayaの続報

<活動記録> . . . 8

第37回前田一步園賞を受賞しました

タンチョウ保護研究グループは、第37回前田一步園賞を受賞しました。同賞は北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関し顕著な業績のあった個人、団体に対して財団法人 前田一步園財団が顕彰しており、今年度は当法人と、「道民の森」ボランティア協会との2団体が選考されました。

10月27日に札幌市内のホテルポールスター札幌・セレナードで表彰式が行われ、百瀬理事長が表彰状と副賞をいただきました。当日は第10回一步園ジュニア



自然環境賞を受賞した広尾町立広尾中学校(広尾町)とトムラウシ少年グリーンクラブ(新得町)との表彰式も同時に行われ、それぞれの団体の活動を紹介するポスターが展示されました。

今回の受賞にあたっては釧路市の蛭名市長からの推薦をいただきました。また、表彰式には同市環境保全課の元岡氏が出席し、ポスター展示等のお手伝いをしてくださいました。

2019年度 調査活動の中間報告

* 繁殖状況調査(飛行調査)

今年の飛行調査は十勝地方のみ行いました。天候に恵まれたため、当初の予定通りに4月20日と21日の2日間飛行し、就巢中の83つがいを確認しました。以前から捜索していた十勝川支流の猿別川上流で初めて営巣を確認できたのと、十勝川河川敷内の営巣が治水工事の影響で消失したり、復活したりしている様子が認められました。

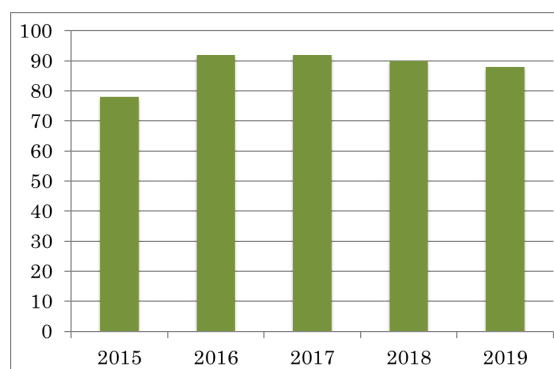
飛行調査のほかに地上から確認できた情報を合わせると88つがいになり、十勝全域での繁殖確認数は概ね昨年並みということになります。

* 標識調査

今年の調査は昨年より一週間早い6月22日から7月21日までの1ヶ月間、週末を中心に13日間行いました。全体では昨年を6羽上回る25羽に標識放鳥することができました。捕獲地の概要は、十勝4羽、釧路19羽、根室2羽でした。今年は初めてオホーツクのサロマ町での標識に挑戦しましたが、いま一步のところ失敗に終わってしまいました。

調査にはのべ124人の方々がボランティアで参加してくださいました。

採取した血液によるヒナの性別判定は、本法人顧問の酪農学園大学の寺岡宏樹教授と同研究室の縣舞



十勝地方のタンチョウの営巣数の推移



会員の榎原農場で：付近で繁殖したつがいが写真の背後によく来ていたようですが、バンディングの当日はお隣の牧場で捕獲・放鳥しました。

さんをお願いし、メス11羽、オス14羽という結果をいただいています。

番外編になりますが、今年は10月に別海町内でスラリーに入ってしまったタンチョウが相次いで



営巣調査：計測の様子

の脇から水が入ってしまった人もいました。巢材を突き通して繁茂していたヨシを刈り取って、現れた巢の実物を確認し、計測等の記録を取る作業は若い研究者にとって良い経験になったようです。

保護される事例が起きました。運良く助け出された1つがいと1家族の計5羽に保護放鳥として足環を装着できたので、これらを加えると今年の標識総数は30羽になりました。

* 営巣調査

8月に行った国際エコキャンプの一環で、十勝地方の2ヶ所で現地調査を行いました。この2ヶ所はどちらも浦幌町内の小さな河跡湿地です。飛行調査の際の写真等を参考に事前の準備をしっかりと行ったのですが、現場で巣を探すのには予想よりも時間がかかりました。狭い水路の中島状の草叢に作られていた巣に入った際には、予想以上に深くて胴付き長靴

俵橋プロジェクト ヤチカンバ調査とニオづくり 高橋 明子

希少樹種である「ヤチカンバ」をみつけるため、9月27日(金)百瀬さん・松野さん・井上さん・工藤さん・私の5人で中標津俵橋湿原に行って来ました。まずは工藤さんが持参した植物図鑑で「ヤチカンバ」の特徴を一同しっかりインプットしてから、生育条件の植生などのレクチャーも受けました。足元が湿地なのとヤチ坊主のような高まりがびっしりあるので歩きにくい事この上なしでしたが、5人それぞれ数メートル間隔で前進しながらお目当ての「ヤチカンバ」を注意深く探しました。ミズゴケやヤチヤナギがあるのでこれはひょっとして・・・と、期待感を持つのですが、他の条件であるホロムイツツジや、エゾゴゼンタチバナは確認できませんでした。随所に「ウメバチソウ」が咲いており気持ちが和みましたが、肝心の「ヤチカンバ」はずいぶんと探したにもかかわらず、ついに見つける事が出来ませんでした。一同残念な思いでいっぱいでしたが、でも私は今回、思いがけない良い野外学習が出来た事でとても楽しい一日でした。



ヤチカンバの搜索



俵橋のニオが完成しました

10月29日(火)「ヤチカンバ」探索隊?と同じメンバーで中標津俵橋にニオ作りに行ってきた。今年も私達の到着時にはすでに一基のニオは、中標津在住の大河原さんと阿部さんの二人により出来上がっておいりましたので、私達はマルチや棒などの後片付けをただけでした。すぐに二基目のニオ設置場所まで車で移動しましたが、目の前に武佐岳がきれいに見える、素晴らしい場所に畑が広がっていて、刈取りが終わったばかりの後には30羽ほどのタンチョウと1羽のクロヅルが仲良く群れていました。昨年よりもずいぶん多くのタンチョウが来ているなあ嬉しくなりました。作業に取りかかると飛び去るのはわかっておいりましたから、本当はずっと見ていたかったのですが、そうもいかずニオ作りを始めましたけれど、みんな実に手際よく、みるみるうちに完成しました。大河原さんと阿部さんには、畑の管理からニオ作りまで今年も多大な尽力をいただきました。本当に感謝の念いっぱいです。どうも有難うございました。

タンチョウの野生ヒナにおける鳥マラリア原虫保有状況

釧路市動物園 飯間裕子

井上雅子、住吉尚、百瀬邦和（タンチョウ保護研究グループ）
新名勲太、犬丸瑞枝、佐藤雪太（日本大学・獣医学科）

鳥マラリアは、鳥が蚊に血を吸われることで媒介される感染症です。鳥マラリア原虫と呼ばれる寄生虫が鳥の赤血球に感染し、感染した鳥は貧血などの症状を示すこともあります。鳥種によっては重篤化して死に至る場合もあり、動物園などの飼育施設では特にペンギン類で問題になることの多い病気です。

…と言えば、とても怖い病気！タンチョウが大変！！と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、釧路市動物園に勤めて早10年、延べ何百羽分のタンチョウの治療や健康診断、死体の解剖をし、さらに執念深く病理組織標本まで作って見てきましたが、未だかつて鳥マラリアが原因で死んだタンチョウを私は見たことがありません。安心して下さい！タンチョウは大丈夫です（今のところ）。

実は私は、2012年頃から動物園で得られたタンチョウの血液サンプルや死体臓器を使ってタンチョウの鳥マラリアについて調査を始めました。その過程で、2015年からタンチョウ保護研究グループの標識調査（バンディング）で性別判定のために採血した血液を少し分けて頂き、野生ヒナの保有状況を調査させて頂けることになりました。タンチョウ保護研究グループの皆様、バンディングに参加されている皆様にも、改めてお礼を申し上げます。

そしてこの度、2015年から2018年までにバンディングで採血された野生ヒナ98羽分の鳥マラリア保有状況をまとめ、先日、令和元年度獣医学術北海道地区学会（北海道獣医師会主催）で発表してきましたので、その概要をご報告させていただきます。

今回、検索を実施した野生ヒナ98羽中、26羽に鳥マラリア原虫の保有が確認されました。同定された原虫は3種類、いずれも国内外で様々な野鳥から検出されている原虫でした。4年間を通しての鳥マラリア原虫保有率は26.5%となりましたが、採血した年によって保有率は7.4%から45.8%まで大きくばらつきができました。また、ヒナは親とともに限られた縄張り内で生活しており、その縄張りの中で

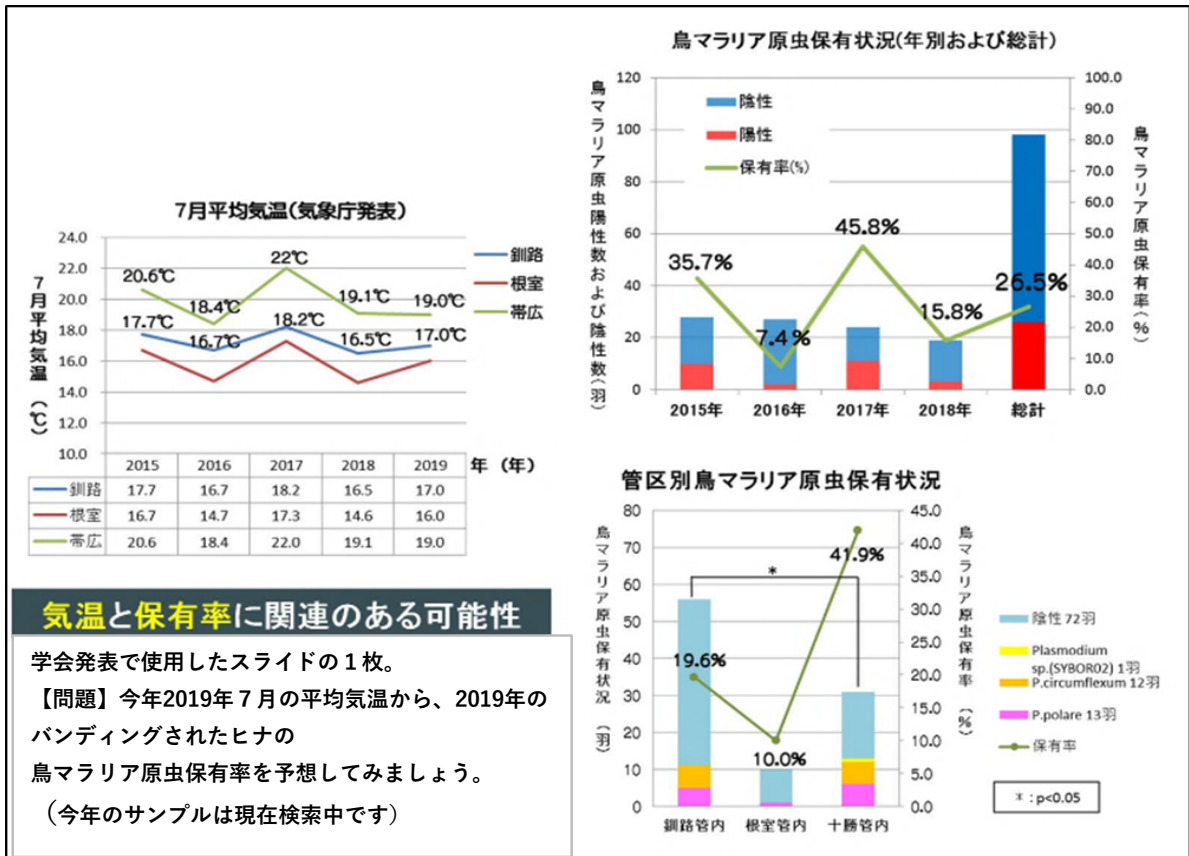
蚊に吸血されて鳥マラリアに感染したと考えられることから、採血した場所（バンディング地点）を元に管区ごと保有状況を調べたところ、原虫の種類に偏りは無いものの、保有率は釧路管内(19.6%)に対して十勝管内(41.11%)の方が有意に高い、という結果がでました。

これはなぜか？

ふと思いついて、釧路や帯広の7月の平均気温を調べてみたところ、平均気温と保有率には見事に相関がありました。平均気温の低い年は保有率も低く、平均気温の高い年は保有率も高い。一般的に原虫を運んでいる蚊の活性は気温の高低に左右されており、その年の気候がタンチョウの原虫保有率に反映されていると考えられました。さらに、例年、十勝（帯広）は釧路に比べて7月の平均気温が2℃ほど高く、これが十勝管内の保有率が有意に高くなる理由だろうと推測されました。

バンディング個体は当然すべてリングがついており、死亡して死体が発見されたタンチョウはすべて動物園に運ばれてきます。98羽のうち、すでに確実に死亡が確認されているのは6羽、この6羽のうち1羽が調査で原虫保有が確認された個体でしたが、いずれも事故死でした。現在タンチョウが保有しているマラリア原虫は、ヒナですらその健康に大きな影響を与えることはないと考えています。ちなみに、ヒナの時に調査に協力してくれたNo. 319は、その後傷病保護され現在動物園で暮らしています。左脚先が義足になってしまいましたが、毎日元気にダンスを披露してくれています。

現在、北海道のタンチョウで保有が確認されている鳥マラリア原虫は、今回のヒナから検出された3種類と、これまでの調査で検出されている1種類の、計4種類です。しつこいですが、これら4種の鳥マラリア原虫は、現状、タンチョウの健康に大きな影響は与えないと考えられます。安心して下さい。一般的に、鳥類は鳥マラリア原虫を保有することがありますが、多くの場合、野鳥たちと原虫は、



お互いを死に追いやることなく上手に付き合っています。寄生虫は宿主を生かしてこそ。

しかし、飼育下ペンギン類では鳥マラリアが問題になりやすいと先に挙げましたが、これは本来の生息地から遠く離れた飼育場所で異なる種の鳥マラリアに感染することで重篤化しやすいとされています。タンチョウは今、生息数を増やし、生息地も徐々に広がっています。今後タンチョウが新たに広がっていく生息地は、確実に現在の生息地よりも温暖で蚊の活性も高いと考えられます。また、この先、地球温暖化が進むと、渡りのルートや時期など鳥たちの生活にも変化が生じるでしょうし、原虫を運ぶ蚊や他の吸血昆虫の活性や分布にも変化がみられてくることでしょう。外来種の侵入などによる、本来そこにはいなかったはずの原虫の持ち込み・定着なども想定されます。

タンチョウは釧路市動物園でも日常的に多くのサンプルを収集する機会があることから、地道にモニタリングを続けることは、タンチョウのみならず他の鳥類の状況や温暖化などによる環境変化を捉える指標ともなり得、非常に有意義です。

これからもぜひ調査を継続していきたいと考えておりますので、皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それはそうと、最近、釧路市動物園のタンチョウに特化した公式SNSを始めました。「まいにちタンチョウ・レスキュー@釧路市動物園」、ツイッターを中心に、義足のタンチョウ「モモ」を始め、レスキューされてきたタンチョウの治療など普段は絶対に見られないタンチョウの様子を紹介しています。ぜひフォローして頂ければ嬉しいですが、アカウントをお持ちでなくてもインターネットに接続できればご覧頂けますので、ぜひアクセスしてみてくださいね。釧路市動物園でも、月に一回、いずれかの日曜11時45分からガイド「タンチョウ・レスキュー(ミニバックヤードツアーつき)」(所要時間約45分)を開催中です。こちらもぜひご参加下さい。詳細はお問合せ下さい。

まいにちタンチョウ・レスキュー@釧路市動物園【公式】



釧路市動物園のタンチョウたちのまいにち。レスキューされた野生タンチョウの治療や35羽を超える飼育下繁殖群の様子、いま、タンチョウが抱える問題...あまり知られていない、タンチョウまみれの毎日をお伝えします。
<https://twitter.com/CraneKushiroZoo>



タンチョウは風切り羽をいつ換えるのか

釧路市動物園 吉野智生

鳥類の多くは空を飛ぶことができます。この飛ぶための羽を風切り羽と呼びますが、羽は擦り切れたり汚れたりするので、定期的に新しい羽に生え変わる、換羽と呼ばれる仕組みがあります。換羽方式は鳥の種類によって異なり、例えば小型鳥類では1枚ずつ順番に換わり、大型猛禽類では数年かけて換羽するので、換羽中も飛ぶことができます。一方でカモ類やツル類は短期間で風切り羽が全て抜け落ちるため、換羽中は飛ぶことができません。では、タンチョウの風切り羽はいつ頃、どのくらいの頻度で換羽するのでしょうか。そこで飼育下での記録と標本から、タンチョウの風切り羽の換羽について調べてみました。

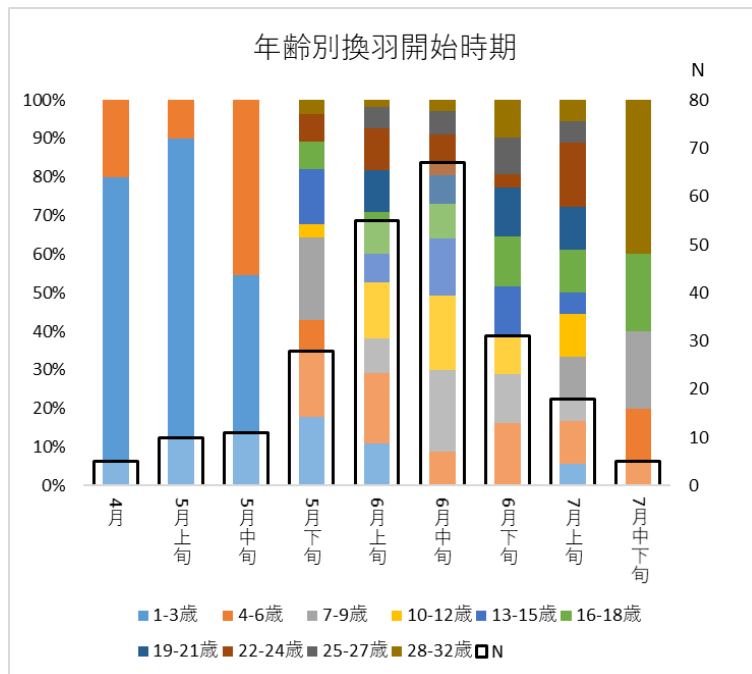
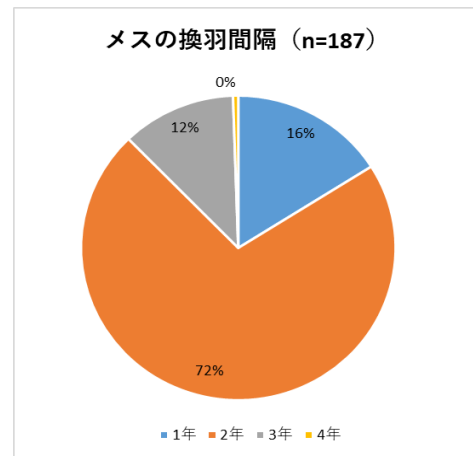
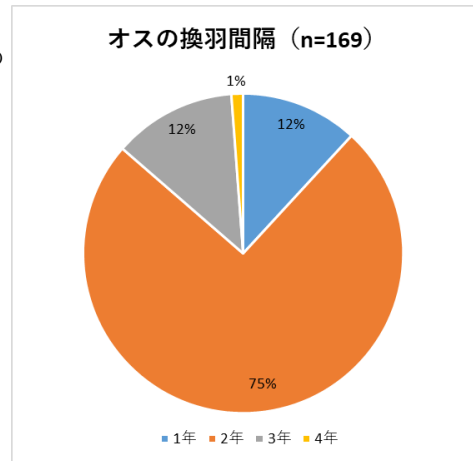
対象としたのは釧路市動物園、丹頂鶴自然公園および阿寒国際ツルセンターにあった、年齢のわかっている51個体分（オス25メス26）の記録です。これらが何歳（満年齢。生年を0歳）の時に換羽したかを調べました。まず、初めての換羽は概ね満2歳で起こりますが、例外的に1歳や3歳で換羽する個体が少数いました。何年に1度換羽するかを調べると、平均するとオスは1.98年、メスは1.99年に1度の換羽で雌雄差はありませんでした。しかし細かく見ると一定ではなく、全換羽回数の約7割は2年に1度でしたが、連続して変わる年も、2年や3年、長い

と4年に1度換羽という例もありました。2回以上換羽を行った個体でどのように換羽するかを調べたところ、2回目まででオス5通りメス7通りのパターンがあり、最終的にオスは21通り（N=22）、メスは20通り（N=21）となり、個体差が激しいことがわかりました。

次に、風切り羽はいつ頃換羽するのかを調べてみると、多くの場合5月下旬から7月上旬で、最も多いのは6月中旬でした。これは繁殖とも関係するようで、若い個体、特に初めての換羽や、非繁殖個体では4月から5月上旬など、早めの時期に換羽を始めているようです。年齢が上がるほど換羽開始は遅めになる傾向はありましたが、必ずしもそうではなく、個体差もあるようです。

ただ飼育個体は野生よりはエサ条件がよいことや、無精卵だった場合は2腹目、3腹目を産ませる場合があることなどから、野生

個体ではもう少し換羽の間隔が長くなったり、換羽時期が早かったりするかもしれません。細かい条件も含めて、野生個体の情報と見比べてみる必要があるでしょう。



これまでの人生の80年のうち、70年間ぐらいは熱心に鳥を観察してきた。あるときは、幹のコブまでが鳥に見えるほど熱心に、あるときは鳥よりも同行の美女の観察の方が忙しかった。

この間、野鳥に関する映画、動画、写真をいやというほど見てきた。下手くそながら自分でも撮影した。でも、今回は「まいりました！」と、ひれ伏したくなるような動画に出会った。世界で1億6000万人の会員を有する「ネットフリックス」のオリジナル番組「ダンシング・ウィズ・バード」だ。

主役は主としてパプアニューギニアのゴクラクチョウ。アマゾンのマイコドリなども加わっている。これらの鳥たちは、日本のテレビの自然番組などでもときどき登場する。だが、この動画を見たら日本の映像が悲しいほどに見劣りがする。

オスがメスを誘うため突飛な色とデザインの装飾羽を自在に操って奇想天外なダンスを踊る。ときには、敵や恋敵を追い払うために犬の鳴き声をまねし、木を伐採する音や人間の話し声までも巧みに再現する。ジャングルの奥深くでこんな営みがあるとは驚愕するだろう。

未だに、ガールフレンドの見つからない男性にとっては貴重な教訓だ。オトコはこれだけ努力

しなくては相手を捕まえられないのだ。

さあ、がんばれ。

ゴクラクチョウを見たさに、パプアニューギニアに出かけたことがあった。友人の紹介でもっとも腕がいいという探鳥ガイドが見つかった。謝礼はお金よりもウイスキーの方がいいという。前の晩早々に、ガイドはホテルまで「謝礼」を受け取りにきた。翌朝はいくら待っても彼はこなかった。代わりに現れた10代半ばの息子が「パパは酒ビンを抱えてジャングルに消えてしまって帰ってこない」という。代わって、息子が案内してくれたが、オオフウチョウをチラと見かけたことと、遠くの鳴き声を聞こえたぐらいで、憧れのバードウォッチングは終わった。ウイスキーは成功報酬にするべきだった。

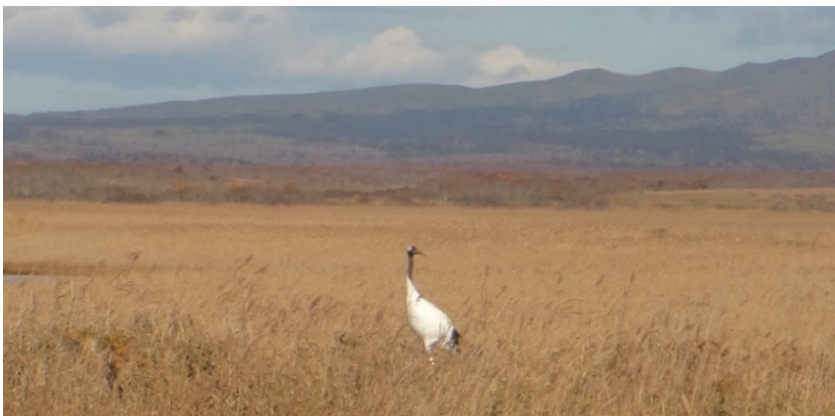
念のために、ネットフリックスの視聴料は月額800円（税抜）から。1ヵ月無料の試聴だけ見て終わったら解約する手もある。この値段で、数千もの人気TVシリーズや名画が見られるのはお得とは思う。

Belaya(ベラヤ)の続報（事務局）

国後で2羽のヒナを育てているのが6月29日に撮影されたBelayaですが、残念なことに10月15日に別海でヒナなしの番いでいるところが目撃されました。

その後、10月31日に国後に戻り、11月2日には、

なんと、繁殖地に1羽で戻っているところが確認されています。発信器の記録によると11月5日に、また北海道に帰ってきましたが、1羽でいるのか相棒と一緒にいるのかは、まだ確認されていません。



2019年11月2日国後の繁殖地にて

<写真提供>
クリル国家自然保護区学術調査研究担当副所長
エフゲニー・コズロフスキー氏

<活動記録> (2019年8月～11月)

- 8月2日 運営会議 (4名出席)
- 8月19日 釧路市上下水道部と釧路湿原広里地区での導水管行進事業に当たって
タンチョウへの留意事項について協議(於: RCC事務所)
- 8月20日～27日 第6回国際エコキャンプ開催
- 9月6日 環境省タンチョウ保護増殖検討会議に出席(百瀬、百瀬ゆりあ)
- 9月6日 運営会議(5名出席)
- 9月9日 TKGニュース67号発送
- 9月27日 俵橋湿原で植物調査(5名参加)
- 10月4日 運営会議(5名出席)
- 10月13日 韓国・京郷新聞社の取材協力(於: RCC事務所)
- 10月19日～24日 東アジアにおけるツル保護のための国際ワークショップに出席
(於: 中国・北京市 北京林業大学 百瀬)
- 10月27日 前田一步園賞受賞式に出席(於: 札幌市 ポールスター札幌)
- 10月29日 俵橋湿原でニオ作り(7名参加)
国際ソロブチミスト釧路アミティから2019年度活動資金援助部門クラブ賞を受賞
- 11月7日 根室振興局・別海町と農地整備・水道整備事業に当たってタンチョウへの留意事項について協議
(於: RCC事務所)
- 11月11日 北海道開発局釧路河川事務所と河川協力団体意見交換会(於: RCC事務所)
- 11月12日 釧路湿原自然再生協議会 第24回土砂流入小委員会に出席(井上)
- 11月13日～15日 厚真町～栗山町一帯のタンチョウ生息状況調査
- 11月18日 オーストラリアのジャーナリストJulian Littler氏にRCCの活動紹介(於: RCC事務所)
- 11月19日 国際ソロブチミスト釧路から2019年度社会ボランティア賞部門クラブ賞を受賞

< 会 員 > (11月22日 現在)

会員数: 180名 (運営会員: 27名、個人サポート会員: 153名 (卵116、ひな 34、若鳥 2、成鳥 0、終身 1))

Red-crowned Crane Conservancy (RCC) newsletter

TANCHO

Thirty-eighth issue November 2019

<表紙写真>

撮影: 百瀬 邦和

* 2017年むかわ生まれの318。

今年11月に2羽で行動しているところが
観察されました。(千歳市)

認定特定非営利活動法人

タンチョウ保護研究グループ

〒 085-0036

北海道釧路市若竹町9番21号

Tel/Fax 0154-22-1993

e-mail: tancho1213@pop6.marimo.or.jp

URL: <http://www6.marimo.or.jp/tancho1213>